

輝け！ みらいアスリート

-第7走者- 山蔦 桜子さん (馬場馬術)

このコーナーでは、茨城国体開催応援企画として、市内出身でさまざまなスポーツの分野で活躍する人にスポットをあて、紹介していきます。

やまつた さくらこ
山蔦 桜子さん

(県立並木中等教育学校4年次/高1)

乗馬クラブを営んでいる両親の下で、幼少期から自然に馬と触れ合える環境の中で育つ。中学校1年から本格的に馬場馬術を始め、今年8月の「第367回全日本ジュニア馬場馬術大会2019」で総合3位の成績を収め、いきいき茨城ゆめ国体に茨城県代表として出場が決まる。15歳。愛馬はトウルバドゥール号(鹿毛/驕馬/19歳)。

馬場馬術競技とは

演技の正確さや美しさを競う競技。常足・速足・駆足の3種類の歩き方を基本に、さまざまなステップを踏んだり、図形を描いたりする。演技内容が決まっている「規定演技」と、決められた運動(エレメンツ)を取り入れて演技を構成し、音楽をつけて行う「自由演技」の2つを審査し、点数化して競いあう競技。



「馬と一心同体になれる瞬間、
すごく達成感があるんです」。

輝け！みらいアスリートの第7走者は、馬場馬術の山蔦桜子さんです。山蔦さんは現在(南太田)で日々練習に励んでいます。生まれたときから馬は身近な存在で、日常的に乗っていたと話す山蔦さん。本格的に馬場馬術の競技を始めたのは中学校1年生のとき。大きな大会への出場を目指して「もっと上手に乗れるようになりたい」と思うようになったことがきっかけと話します。

馬と一心同体になる達成感

馬術は、男女の区別なく戦う競技であるとともに、人間以外の動物が出場する唯一の競技でもあります。「自分だけでなく、馬のコンディションを整えることが重要なんです」と話します。競技中、馬と自分の息がぴったりと合って一心同体になれる瞬間があるといい、その瞬間は「ものすごい達成感が味わえるんです」と目を輝かせます。

周りの人の支えがあって、今の自分がある

今年8月に出場した全日本ジュニア馬場馬術大会では、見事3位に輝き、「今までが一番嬉しかった」と話します。しかしながら、そこに至るまでは苦労もあつたそうです。「一時期、私が乗っ

ているトウルバドゥールが言うことを聞かなくなってしまったことがあつて。その時はすごくつらかったですね」。家族やコーチである川添先生の支えもあり、そのスランプを脱した山蔦さん。「自分が周りの人たちにどれほど支えられてきたか気が付きました」と感謝の言葉を口にします。

全日本で優勝が目標。 将来は獣医にも

今後の目標は「全日本で優勝すること」と話す山蔦さん。そのために、「自分とトウルバドゥールの苦手な部分を克服し、さらに成長したい」と意気込みます。勉強も頑張りながら馬術の腕も磨き、将来は「獣医と馬場馬術のアスリートになりたい」と笑顔を見せてくれました。



愛馬トウルバドゥール号にまたがり、笑顔を見せる山蔦さん(左)。馬場馬術の指導者でもある祖父の紘三郎さん(右)と共に。